

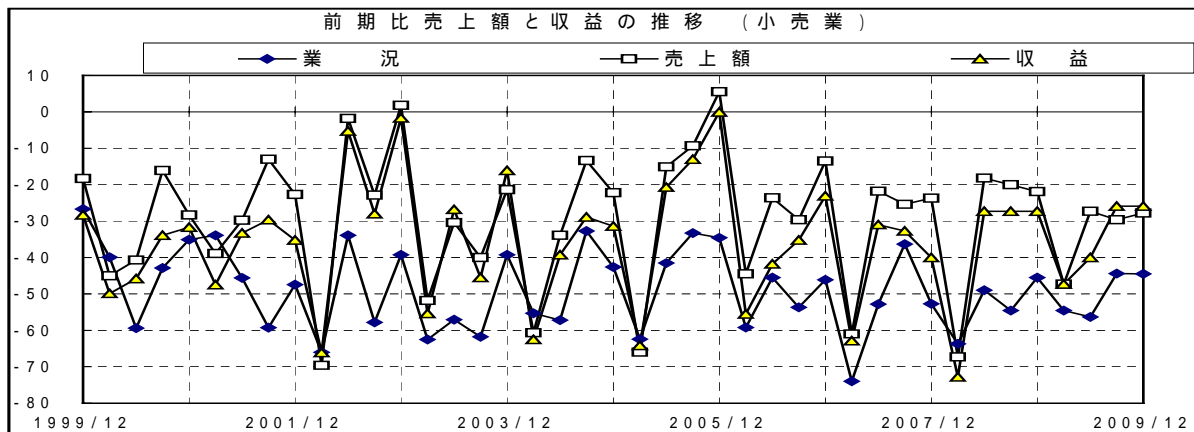
# 小売業 54 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

## 景況

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
業況	-56.3	-44.4	-44.5	-64.7
売上額	-27.3	-29.6	-27.8	-53.6
収益	-40.0	-25.9	-25.9	-53.6

今期の業況判断DI値は 44.5 と、前期比 0.1 ポイント低下、5 業種中 2 番目に低い水準となった。地区別にみると、静内、三石、広尾地区が改善し、浦河、様似、えりも地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 27.8 と、前期比マイナス値が縮小し 1.8 ポイント上昇した一方、収益は 25.9 と、前期比横ばいとなった。

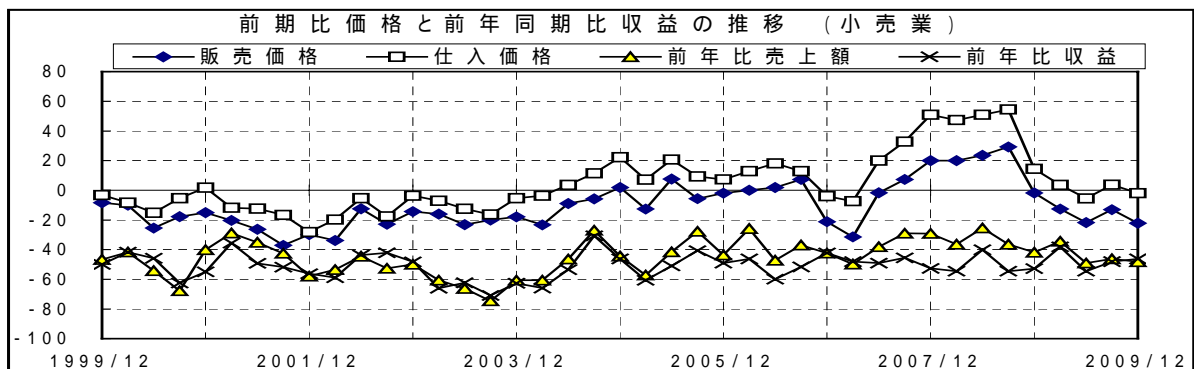


## 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
販売価格	-21.8	-13.0	-22.2	-24.0
仕入価格	-5.5	3.7	-1.9	-3.7

販売価格判断DI値( 22.2)は、前期比マイナス値が拡大し 9.2 ポイント低下、仕入価格判断DI値( 1.9)は、前期比プラスからマイナス値に転じ 5.6 ポイント低下、それぞれ価格低下基調を強めている。業種別にみると、衣料品が販売価格で上昇、仕入価格で低下、食料品が

販売、仕入価格ともに上昇、家電品が販売価格で低下、仕入価格で上昇している。



## 雇用面の動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
残業時間	-10.9	-7.4	-12.9	-18.5
人手状況	7.3	1.8	-1.9	0.0

残業時間判断DI値は 12.9 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 5.5 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 1.9 と、前期比プラスからマイナス値に転じ 3.7 ポイント低下、人手不足感を強めている。

## 設備投資の動き

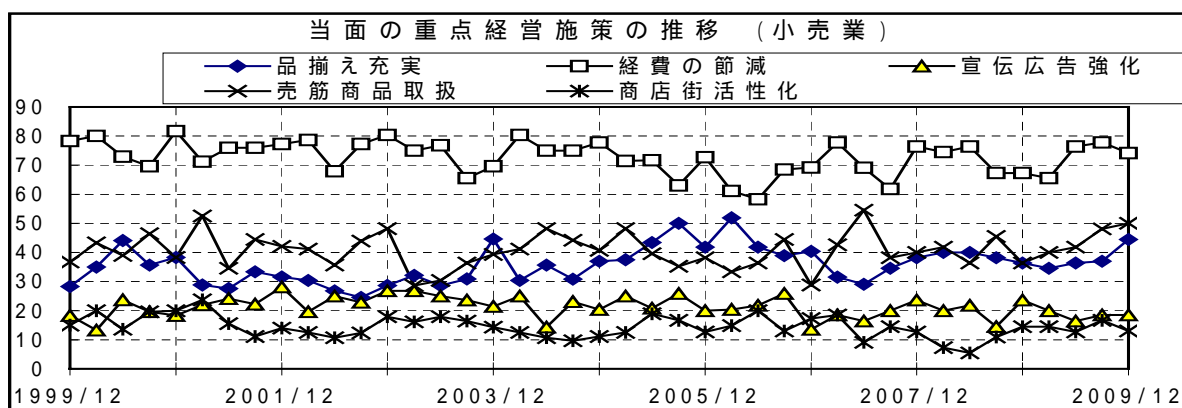
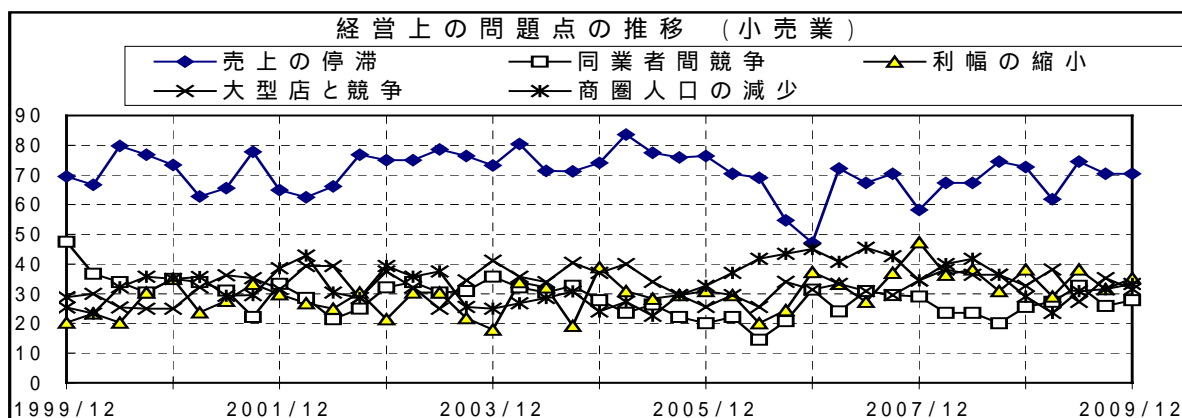
設備投資の充足感を示すD I値は 7.5と、前期( 14.8)からマイナス値が縮小し7.3ポイント上昇、不足感が弱まる一方、適正と回答した企業は77.7%と、前期(77.8%)から0.1ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は1.9%と、前期(13.0%)比11.1ポイント低下、件数で前期の7社に対し1社の実施となった。また、来期予定では当期比2社増の3社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ70.4%、次いで「利幅の縮小」35.2%、「商圈人口の減少」33.3%、「大型店との競争」31.5%の順に続き、前期との比較では「利幅の縮小」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、衣料品が「商圈人口の減少」、食料品が「売上の停滞」、家電品が「利幅の縮小」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ74.1%、次いで「売れ筋商品取扱」50.0%、「品揃えの充実」44.4%、「宣伝広告の強化」、「仕入先の開拓選別」18.5%の順となっている。業種別にみると、衣料品が「品揃えの充実」、食料品が「経費の節減」、「品揃えの充実」、家電品が「経費の節減」をトップに挙げている。



## 来期の見通し

来期(平成22年1~3月期)の予想業況判断D I値は 64.7と、今期( 44.5)実績比20.2ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、今期実績比売上額が 53.6(今期 27.8)、収益が 53.6(今期 25.9)と、それぞれマイナス値が拡大し25.8、27.7ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、今期実績比販売価格が 24.0(今期 22.2)、仕入価格が 3.7(今期 1.9)と、それぞれマイナス値が拡大し1.8、1.8ポイント低下、価格低下基調が強まる見通しとなっている。

## サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

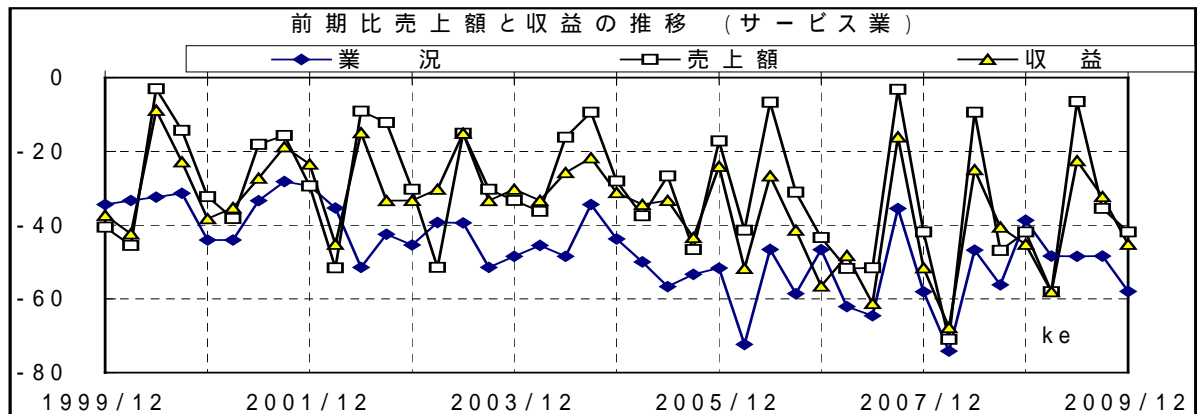
### 概 況

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
業 況	-48.5	-48.4	-58.0	-58.1
売上額	-6.5	-35.5	-41.9	-54.8
収 益	-22.6	-32.3	-45.2	-45.1

今期の業況判断DI値は 58.0 と、前期比マイナス値が拡大し9.6ポイント低下、5業種中最も低い水準となった。地区別にみると、三石地区が改善し、様似地区が横ばい、浦河、静内、えろも、広尾地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が41.9、収益が45.2と、それぞれマイナス

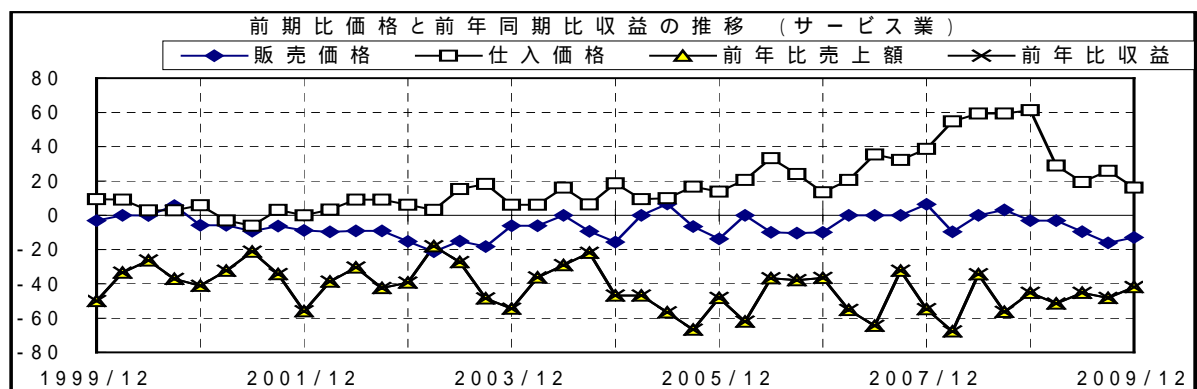
値が拡大し6.4、12.9ポイント低下した。



### 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
料金価格	-9.6	-16.1	-12.9	-16.2
材料価格	19.3	25.9	16.1	6.5

料金価格判断DI値(12.9)は、前期比マイナス値が縮小し3.2ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、材料価格判断DI値(16.1)は、前期比プラス値が縮小し9.8ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、旅館が料金で低下、材料で横ばい、洗濯・理美容が料金で横ばい、材料で上昇、自動車整備が料金で上昇、材料で低下している。



### 雇用面の動き

DI 値 の推移	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期見通し
残業時間	-16.1	-12.9	-25.8	-29.1
人手状況	9.7	9.6	-3.2	3.2

残業時間判断DI値は 25.8 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比12.9ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 3.2 と、前期比プラスからマイナス値に転じ12.8ポイント低下、人手不足感を強めている。

### 設備投資の動き

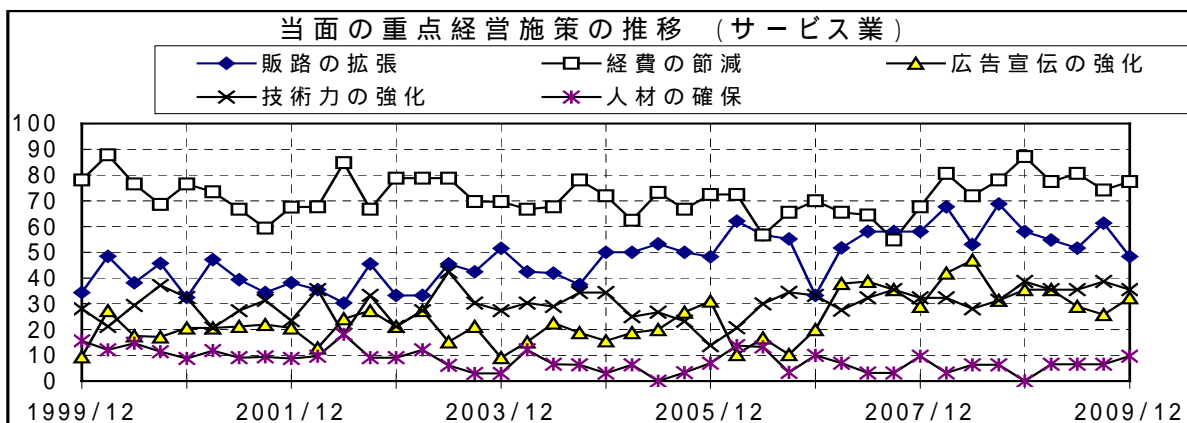
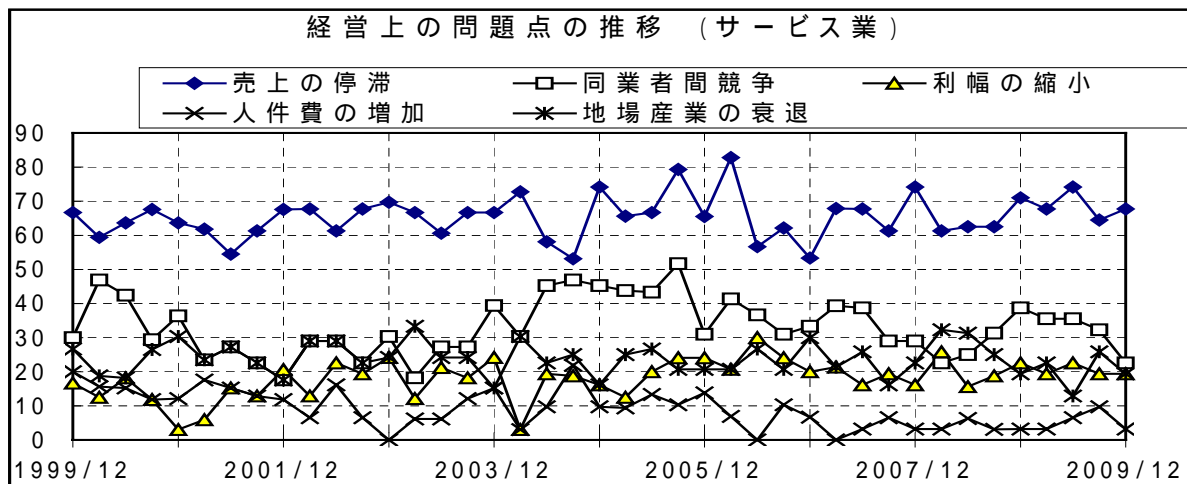
設備投資の充足感を示すDI値は 22.6 と、前期( 12.9) から不足感を強めマイナス値が9.7ポイント拡大、適正と回答した企業も71.0%と、前期(74.3%)から3.3ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は12.9%と、前期(22.6%)比9.7ポイント低下、件数で前期の7社に対し4社の実施となった。また、来期予定では当期比3社減の1社となっている。

### 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ67.7%、次いで「商圏人口の減少」41.9%、「同業者間との競争」22.6%、「地場産業の衰退」、「利幅の縮小」19.4%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「商圏人口の減少」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「売上の停滞」、「同業者間との競争」、「商圏人口の減少」、洗濯・理美容が「売上の停滞」、「商圏人口の減少」、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ77.4%、次いで「販路を広げる」48.4%、「技術力を強化する」35.5%、「宣伝広告の強化」32.3%の順となっている。業種別にみると、旅館が「経費の節減」、「販路を広げる」、洗濯・理美容、自動車整備が「経費の節減」をトップに挙げている。



### 来期の見通し

来期(平成22年1~3月期)の予想業況判断DI値は 58.1と、今期( 58.0)実績比0.1ポイントの極僅かな悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額が 54.8(今期 41.9)と、今期実績比マイナス値が拡大し12.9ポイント低下、収益が 45.1(今期 45.2)と、今期実績比0.1ポイントの極僅かな上昇見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断DI値は、今期実績比料金価格が 16.2(今期 12.9)と、マイナス値が拡大し3.3ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、材料価格は6.5(今期 16.1)と、プラス値が縮小し9.6ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。